

岩手の生協の今をお伝えする



岩手の生協

VOL.30 2012.8

岩手県生活協同組合連合会

〒020-0180 岩手郡滝沢村土沢220-3

☎019-684-2225 / ☎019-684-2227



通常総会は全議案を満場一致で採決



国際協同組合年の取り組みがスタート



800人が集い、消費税増税反対を訴えました



「平和憲法9条をまもる岩手の会」学習活動交流会で、水面下ですすむ憲法改悪について学習

特集

岩手県生協連 第47期通常総会報告

～いのちとくらしを守る取り組みを県内生協や諸団体と一緒に進めましょう～

2012 国際協同組合年岩手県実行委員会の取り組み

消費税増税・社会保障改悪に対する運動を諸団体と進めています

■会員生協トピックス

- ・盛岡大学生協
- ・遠野市役所生協

■岩手県生協連トピックス

- ・国際協同組合年記念企画
「おもひでぼろぼろ」のご案内 ほか

岩手県生協連 第47期通常総会を開催しました

「いのちとくらしを守る取り組みを県内生協や諸団体と一緒に進めまいよう」

6月21日、岩手労働福祉会館において、代議員・オブザーバー・理事・監事の58名が出席し、第47期（2012年度）通常総会を開催しました。総会では、震災からの復旧・復興支援に取り組んだ「2011年度事業・決算報告」、国際協同組合年の取り組みやいのちとくらしを守るための重点課題をまとめた「2012年度事業計画・予算」など5つの議案が審議され、全議案を満場一致で採択しました。

《くらしや生協をめぐる情勢》

震災から1年4ヶ月あまりが経ち、復興にむけ生協としても被災者の生活再建と岩手の復興のために日々奮闘し、努力を重ねています。しかし、復旧・復興はこれから5～10年、その結果や検証ができるまでにはさらに時間がかかることが予想されます。

被災地は少なくてもここ十数年間、若者の働く場の縮小や少子化により人口が減少してきました。地域経済は沈下の一途をたどり、高齢化・過疎化・貧困が進み、医師不足・病床切捨てなど生存権すら脅かされてきました。こうした積み重なった問題を解決し、復興させていくためには、単なるインフラや経済的復興ではなく、一人ひとりの人間が大切にされる「人間の復興」と、社会矛盾やひずみを直し、安心して暮らせるような社会に転換させていく「世直しの復興」の両方を追及しなければ

なりません。とりわけ、若者の就労を確保し、国策としての地域再生が求められます。

地域を再生していくためには、私たちのくらしを取り巻く様々な問題に生協が積極的な役割を果たさなければなりません。

2012年は国連総会が満場一致で決めた国際協同組合年です。

協同組合間や全国の生協、諸団体と力を合わせ、地域に貢献し地域から信頼・支持される生協をめざし、運動を進めます。

《みんなで取り組む重点課題》

①「くらし・いのち・地域・平和・経営」の「5つの危機」に、真正面から立ち向かう組合員・県民参加の運動を、ネットワークを広げながら積極的に進めます。

②県内生協の力を合わせ、地域や被災者の願いに沿った復興支援、生活再建支援に取り組みま

す。

③国際協同組合年を機に、協同組合運動の果たす役割や使命を学び、話し合う取り組みを進めます。

④だれもが安心して暮らせる協同のある街、地域コミュニティづくりを進めます。

⑤会員生協の運動・事業・経営にさらに役立ち、県内に生協の支持・信頼を広げます。県連の役割・機能を強化します。

《当日発言（要旨）》

いわて生協 石橋百合子代議員

東日本大震災によって岩手はくらし・いのち・地域・平和・経営の5つが一瞬にして暗闇に陥れた。しかし、内陸部の組合員や職員、全国の生協からのすばやい支援物資や炊き出しなど心のこもった活動が行われ、組合員の心をひとつにして様々な支援活動の輪が地域の人々を巻き込んで広

がった。組合員だけでなく被災地で苦しむ地域の人たちの心の支えになった支援活動に対し、生活協同組合の意義・価値を改めて感じた。細やかな要望に応えるためにも、県連や会員生協が築いてきた総合的な支援活動を協力し行うことができるネットワークづくりにむけ県連がコーディネーターの役割をしてほしいと思う。



また、原発問題について、県連の計画案には自然エネルギーの学習会などが盛り込まれているが、再稼働させないことが早急に行われなければならない。ぜひ、原発廃止への運動を会員生協をあげて

取り組むよう願っている。

消費税と社会保障改悪について、生活苦で喘いでいる多くの人々を無視したこの問題に会員生協が一丸となり、早急に阻止する運動を展開できればと思う。

大船渡市役所職員生協

佐藤大基代議員

今回の震災で、みなさんから多大なるご支援、ご声援をいただいたことに心から感謝する。昨年度は震災の混乱が続く中でのレストランだったが、供給高は111%の増益となった。その背景にあるのは、多くの方々に被災地に足を運んでいただいたことと、商品の供給がうまくいかなかったときに全国各地の地場産品をいただき豊富な商品展開ができたということと、職員が寝ずにがんばってくれた結果だと思う。



第2号議案の中で、復興施策の要請行動として個人資産の二重

ローン問題や地元中小企業への再建支援に取り組むことは被災地として大変ありがたいと思う。

岩手県労済生協 佐藤雅喜代議員

東日本大震災はかつて対応したことがないほどの大規模災害で、すぐに組合員の皆さんのケアを中心に活動してきた。その中で被災された方に対して直接自宅へ訪問し、なるべく早く共済金を支払えるよう対応してきた。職員の人数も限られた中で、罹災証明書のみで共済金を支払うなど、とにかく早く漏れなく支払うというのが重要だと取り組んだ。

今年度は、最後の一人まで確実に共済金をお支払いするということを中心に取り組みを進めて行きたいと思う。



みやこ映画生協 櫛桁一則代議員

みやこ映画生協は映画で地域を元気にということを一番の目標と

して取り組んできた。昨年5月のグリーンピア三陸宮古からスタートした巡回上映会は、今年5月で100回を迎えた。映画上映会だけではなく、お茶やお菓子、子どもたちには文具などを持っていくので、お茶を飲んでコミュニケーションを取ってもらう機会になっている。いわて生協やユニセフ協会にも協力をいただき、この活動ができていると感じる。

今年度は、仮設での心のケア、ソフト面での支援が重要になってくる。今後とも皆さんの協力をいいただきながら活動していきたい。

消費者信用生協 上田正代議員

最近増えているのは、65歳以上の高齢者の相談で、全相談者の2割近くを占めている。また、年収200万円以下の方が相談するケースも多い。生活保護は、毎月1万人近く受給者が増えており、貧困拡大社会になっているということを相談の現場では実感する。

国際協同組合年について、協同組合原則の第7には地域社会への配慮とあるが、生活協同組合は今消費分野だけではなく福祉・就労・平和・環境を含め、くらし全般に関わる取り組みを行っている。組合員の利益を守ることが地域全体

を発展させ、公益を図る取り組みが組合員の共益を図ることに繋がるという関係性を明確にしていったらよいのではないかと思う。

岩手大学生協 古川諄哉代議員

昨年度は食の大切さを呼びかけ、食育に力を入れた活動を学生委員会が主体となって行ってきた。食堂で使用している県産米ひとめぼれの産地体験会では、自分たちの手で田植え・稲刈りなどを体験。農家の方々の苦労やどんな思いで農業に従事しているかを知る機会にもなっている。最近米離れが続いてきているという農家の方の意見を取り入れ、お米のよさを伝えるパネルを作成し食堂に設置。「農家の方の苦労や米はすばらしい食品だとわかった」など、多数の好評の意見をいただいた。



盛岡医療生協 志藤夕力代議員

昨年度、医療生協は東日本大震

災の被災地となった大船渡への医療支援、リハビリの支援、閉じこもり予防の支援など行ってきた。

他に、グループホーム「さくらの家」の建設を行った。建設にあたり建設委員会を立ち上げ、組合員が業者や設計士と直接関わりながら進めた。設計から壁材の色など様々な意見を組合員が出し合い、組合員の納得のいく施設を作ることができた。この取り組みは医療生協らしいと思う。さくらの家の職員が「施設で働いていると孤立しがちだが、組合員と関わることで私たちは支えられている」と涙ながらに語ったというのを聞き、本当によかったと感じている。



岩手県学校生協 千田博之代議員

学校生協では沿岸の事業所2ヶ所が被災、施設を借り復旧を進めた。5月にはユニセフからの支援で被災地区の子どもたちに学用品1万6千セットが納品され、学校

生協と先生方が中心となり子どもたちに届けた。また、物資が充足した後、必要なものは地域によって違うことから、300万円の支援金を沿岸に送った。

最近の問題としては、仮設校舎や間借りの校舎で子どもたちが不便な状況で授業を受けていることがある。単体でできるものは大きくないが、皆さんとまとまることで大きな力になると思うので、今後も引き続き支援に取り組んでいきたいと思う。

《意見・質問に対する理事会からの答弁 加藤善正会長理事》

生協運動が着実に発展し、多くの県民の支持、とりわけ被災者の皆さんの大きな信頼を集めてきている、その実践が詳しく報告された討論であったと思う。

脱原発の意思表示をする集会など目に見える行動を諸団体と取り組む必要があると思う。また、被災地の人づくりや起業家の支援について、諸団体と協力したり、会員生協の得意分野を活かしながら取り組めるよう考えていきたいと思う。

改めて感謝申し上げ、新年度も力を合わせ確実な前進をしてまいりたいと思う。

2012国際協同組合年岩手県実行委員会の取り組み

■第1回委員会を開催

5月18日、2012国際協同組合年岩手県実行委員会は第1回の委員会を開催、19団体と事務局など26名が出席しました。田沼征彦実行委員長は、「すでに全国各地はじめ世界各地で様々な取り組みが進められている。本県でも協同組合の役割についての社会的認知度を広め、協同組合の意義などを知らせていきたい。」と挨拶しました。また、今後の活動として、7月のシンポジウムの開催、9月にミュージカル「おもひでぼろぼろ」の公演、岩手県産の食材を使用した「いわての恵みカレー」（仮称）の開発・販売で協同組合間の連携を強めることを決定しました。

■シンポジウムを開催

7月2日、2012国際協同組合年岩手県シンポジウムを開催、240名が参加しました。

賀川豊彦記念松沢資料館の加山久夫館長が、「協同組合の源流を探る」賀川豊彦の足跡を追って」と題し講演。賀川豊彦が貧困を生み出す社会の問題に気付き、生涯

にわたり行った協同組合運動を紹介しました。加山氏は「協同組合の指導者、組合員などがどの程度深く壮大な理念運動としての協同組合を理解し、自覚しうるかが問題。協同組合が変われば社会は変わる。そのためには、変えるべきものを変え、変えてはならないものを守る勇気が必要。」と話されました。

また、(財)新渡戸基金の内川頼一郎理事長は、「新渡戸稲造と賀川豊彦」と題し講演。新渡戸稲造が岩手の産業組合運動(協同組合運動)に取り組んだ歴史や東京医療利用組合の設立において賀川豊彦と尽力したことを紹介しました。

他にも、協同組合組織が取り組んだ復興支援活動などについて、漁連、JA、生協、森林連から報告されました。



消費税増税・社会保障改革に 反対する運動を諸団体と

一緒に進めていきます

政府は消費税率を10%にする増税法案、社会保障の根幹を揺るがす社会保障制度改革推進法案など、関連法案の衆議院採決を強行しました。可決後の世論調査でも国民の多くは「増税反対」です。被災地ではこれから本格的な復興が始まりますが、消費税増税は復興を妨げるものです。岩手県生協連では、諸団体と一緒に、学習や要請を行いました。

■4月23日

くらしを考えるネットワーク

(7団体) 主催の学習会

中央社会保障推進協議会事務局長の相野谷安孝氏に「社会保障・税の一体改革を斬る」と題し講演いただきました。岩手県生協連も参加しているくらしを考えるネットワークで主催し、120人が参加しました。

相野谷さんは「国は消費税で社会保障をまかなうとしているが、社会保障とは、生活に余裕のある人が多く財源を負担し、生活の厳しい人が受けるもの。消費税を社会保障の財源にすれば、生活の厳しい人にもその財源を求めることになる。さらに、消費税で社会保障を支えようとするれば、2025年には消費税率21%が必要になり、社会保障を良くしてほしいと要望すれば、財源は消費税だから消費税をあげざるを得ない、それはやめてほしいと言えば社会保障

は良くならない、ということになる。消費税増税か、社会保障の削減か、あるいはその両方が国民に迫られる。」「社会保障の財源は、税金でも社会保険料でも、所得に応じて負担する応能負担が原則。しかし、消費税は収入が低い人ほど負担が重い不公平な税金。中小零細企業はやっていけなくなる。それに引き換え大企業の内部留保は260兆円もある。これを社会に還

元させるべき。」と話されました。

また、私たちの消費税増税反対の怒りや思いをハガキに記入し、岩手県・東北選出の国会議員に送りました。ハガキには「税収が少ないこと、社会保障が必要なこともわかります。しかし、保障の必要の人から税金を取る事に理解ができません。税は支払う能力のある人からとるべき。今必要なのは

大企業や資産家への増税です!」「増税より税金の無駄遣いをやめ、被災地復興のために使ってください!!」「復興ははじまったばかり。消費税増税は被災者のくらしを苦しめるだけです。復興第一でお願いします。」など、72通の切実な声が寄せられました。

■県連総会で決議をあげ、 国会議員に訴え

6月21日に行った県連総会では、『社会保障と税の一体改革』と「消費税増税」に反対する決議

を第4号議案として提案し、全員賛成で可決承認しました。

消費税増税を絶対行わないこと、社会保障と税の一体改革を中止し、社会保障の改悪をやめ、財源を消費税に求めないこと、税の応能負担の原則に立ちかえり、税金の取り方・使い方を見直すことを求め、内閣総理大臣、県選出国会議員にも送りました。

■7月1日

実行委員会主催の県民大集会

消費税増税反対の世論を高め、訴えるために、15団体で実行委員会を作り、「消費税増税ストップ! 7・1県民大集会」を行いました。約800人が参加し、消費税増税ストップの声を上げました。

集会のはじめに、各界から切実な声を訴えました。

消費者は、「今でもくらしが苦しいのに、消費税が10%になったら、年収360万円のサラリーマン世



帯の例で年間24万円の負担になり家計を圧迫する。福祉のためと導入された消費税だが、福祉向上の感はない。」と訴えました。

商業者は、「被災地・大船渡市で美容院を営んでいるが、仮設商店街ができ、復興の道を歩み始めているときに、消費税を増税しようと躍起になり、被災地や被災者のことを本気で考えているのか疑問。美容院で使うものを仕入れるときには10%の消費税を払わなければならぬが、それをお客さんからいただくことができるだろうか」と悩みが大きくなるばかり。一日も早く復興できるよう消費税増税をやめさせ、私たちを助けてほしい。」と訴えました。

医療関係者は、「医療機関の収入のほとんどは保険診療によるも



ので、これには消費税がからないため患者さんから消費税をもらっていないが、薬や医療機械を購入した場合は消費税を負担している。10%になれば病院は赤字になる。財務大臣は設備投資をしなければいいと発言しているが、消費税が増税されれば設備投資せずとも倒産する医療機関が増える。日本では今でも医療機関の6割が赤字。首相は消費税増税に命をかけるといっているが、国民のいのち・生活を守ることにこそ命をかけるべき。」と訴えました。他にも高齢者、若者も人間らしい暮らしをこわす消費税増税反対の声を訴えました。

講演では、経済アナリスト・獨協大学経済学部教授の森永卓郎氏が、「絶対に上げてはいけない！消費税は命をうばう」と題し講演。現在子育て世帯を中心に増税が行われていることや消費税増税によって起こる問題について指摘しました。

森永さんは、「6月から年少扶養控除が廃止され、年収500万円で子ども2人・専業主婦の世帯は年間6万6千円の増税になる。子ども手当の廃止と同時に控除の廃止もやめるべきだったが、子育て世帯を選択した大増税になった。他

にも、厚生年金の保険料や健康保険も毎年0.5%ずつ上がり続け、電気料金の値上げ、復興増税なども含めると、この3年間で29万円の手取りが消えることになる。」と試算しました。さらに、「過去の大地震後、復興需要が切れる時期に財政の引き締めや消費税増税を行い恐慌やデフレにつながったという歴史の教訓があるにもかかわらず、2014年に増税することは間違っている。」と訴え、政府資産の処分や相続税のアップなどによる対応を提唱しました。

講演後、「消費税増税法案を廃案にする決議」を提案、承認し、アピール行進を行いました。

■県議会へ消費税増税に反対する請願書を4団体で提出。

最終本会議で採択されました。

岩手県消団連、いわて生協、岩手県学校生協、岩手県生協連の4団体で、消費税増税に反対する請願書を7月3日、岩手県議会に提出しました。

いわて生協内澤祥子副理事長は、「多くの不安の声、怒りの声が寄せられている。消費税増税は庶民のくらしに直結する。8%や10%に引き上げられては暮らしていけない。被災地の声を届けてほ

しい。」と訴えました。佐々木博県議会議長は、「消費税率が上がる2年後は、被災地での住宅再建が本格化する。住宅は金額も大きいので、消費税が大きな負担になる。しっかりと議論する。」と答えました。

その後の県議会6月定例会の最終本会議が開かれた7月9日、私たちの請願と同様に消費税増税に反対の意向を示す計2件の請願が採択されました。5日の総務委員会では不採択でしたが、改めて採決で採択とし、意見書で国に反対の意向を示すことになりました。

今後も諸団体と消費税増税・社会保障改悪に反対する学習会や宣伝行動などの運動を一緒に進めていきます。



盛岡大学生生活協同組合

盛岡大学生協では、4月15日に新学期活動の一つとして盛岡探検を開催しました。盛岡探検は新入生を対象に、友達をつくるきっかけとしても行うことや、盛岡を知り自分の大学生活に活かしてもらうことを狙いとした企画です。

当日は10名の方々に参加していただきました。一緒に学生委員会のメンバーが3グループに別れて、盛岡市の大通りやイオンモール盛岡南をバスや徒歩で探検しました。企画中には盛岡の街にあるいくつかの風景や建造物を写真にして問題に出し、街を歩きながら探してもらいました。最後は、集合写真にグループでコメントを書いたり、スライドショーを見ながら振り返りを行いました。その時に感想発表も行いましたが、参加してくださったみなさんに楽しかったと言っていただけでした。本当によかったと思っています。

盛岡大学生協では今年度もスローガン「アットホーム」盛岡大学生の憩いの場に」のもと、活動に日々打ち込んでいます。

これからも組合員さんのために、多くの活動を展開していくつもりです。そして今年度もこれから組合員になるであろう新入生や受験生に対して、今までの活動を通して培ってきたものを活かしながら、昨年よりも、より良い活動を行っていきたいと思います。

(盛岡大学生協 学生委員

小笠原理斗)



遠野市役所生活協同組合

東日本大震災において、沿岸部の各市役所生協店舗も甚大な被害を受けました。

遠野市においては市役所中央館が全壊し、昨年4月25日には、市役所本庁舎機能が駅前のショッピングセンターに「とびあ庁舎」として移転することとなり、生協の店舗も一緒に引越しました。現在、2坪程度の店舗で営業していますが、市の機構改革で今年4月からは市役所機能が9カ所に分散し、売場面積の縮小、組合員の分散化が進み、売上の確保に苦慮しています。

しかし、昨年の震災以降、日本生協連、県生協連から物心両面のご支援をいただき、こうした声に応えるためにも、組合員の生活に依拠した生協運営を継続させたいと考えています。

自助、共助、公助という言葉がありますが、今般の震災においてはこの「共助」という言葉が大きく浮き彫りに

なつたと思います。生協をはじめ各団体・個人が震災復旧・復興作業において、この「共助」を実践した訳ですが、この姿が協同組合の理念の正しさとして広く全国に認識されることを希望します。

今年は、国際協同組合年でもあります。今後益々互助・共助の精神に基づく健全で民主的な社会が醸成されるよう、本生協としても微力ではありますが全国の仲間と一緒にたつて取り組みたいと思います。

(遠野市役所生協 理事

阿部順郎)



■「世界の平和を願う市民のつどいin岩手」を開催

4月22日、「世界の平和を願う市民のつどいin岩手」実行委員会（岩手県生協連など18団体で構成）主催で「世界の平和を願う市民のつどいin岩手」が、盛岡市岩手県公会堂において、市民など340人の参加で開催されました。今年で10回目となるつどいは、被災地大槌町の伝統芸能「向川原虎舞」の勇壮な舞で幕を開けました。迫力があり、被災地との連携を強めることもできました。

講演では、「犠牲なき社会をめざすために」被災地から、基地問題と原発、平和を考える」と題し、東京大学大学院教授で九条の会講師団の高橋哲哉さんが、現代社会の問題を犠牲のシステムというわかりやすい切り口でお話されました。「原発は、ある人の利益が、他の人の生活や人生・生命の犠牲の上に成り立っている犠牲のシステム。戦後の米軍基地が集中する沖縄への不平等も同様。ある特定の人や地域に犠牲を負わせている状況は、人権侵害であり許されないことだ。」と指摘されました。

参加者からは「原発・基地・消費税などによる犠牲なき社会を実現する根は平和と人権だと分かった」などの感想が寄せられました。



■「平和憲法・9条をまもる岩手の会」学習・活動交流会に全県から110人が参加

4月22日の午後、岩手県公会堂で「平和憲法・9条をまもる岩手の会」（事務局…岩手県生協連、岩手県消団連）の学習・活動交流会が開催され、約110人が参加し、学習と活動交流を行いました。

全体学習では、東京慈恵会医科大学教授（憲法学）の小沢隆一さんから「平和憲法・9条をめぐる情勢」水面下ですすむ憲法改悪」について学びました。

「3・11」後の山積する諸課題の中で、憲法改悪がひたひたと

進んでいることを、①民主党政権の安保・防衛政策、②憲法審査会、③自民党新憲法草案、④大阪維新の会という4つの視点からお話ししました。まとめとして「平和的生存権の理念は、誰かの犠牲の上によって立つ幸せなどはないということ」を意味している。日本の原発政策や安全保障政策などの問題を憲法の視点から点検し、それを国会や政府に改めさせ、問題を克服していく努力が、私たち国民に求められている。」と話されました。

参加者からは、「改憲の動きが強くなっていると聞いて9条を守ろうという思いが強まった。」「各地の九条の会の企画・ニュースはいつも大変勉強になっている。参考になった。」などの感想が寄せられました。

■国際協同組合年記念企画「おもひでぼろぼろ」にご参加を！

2012年は国連が定めた「国際協同組合年」です。岩手県でも実行委員会が結成され、協同組合を広く県民にお知らせする取り組みを行っています。

9月にはわらび座ミュージカ

ル「おもひでぼろぼろ」の公演を行い、自然の美しさ、人々のやさしさ、助け合って生きるすばらしさなどを多くの方に楽しんでいただき、協同組合を認知してもらえよう取り組みます。チケットのお求めはいわて生協各店舗他プレイガイドで扱っています（被災者は無料でご招待）。



《盛岡会場》

■日 9月6日(木)
■時間 18時半
■場所 盛岡市民文化ホール
■前売券 3千円

《大船渡会場》

■日 9月8日(土)
■時間 14時
■場所 リアスホール
■無料ですが、入場券が必要